

社会福祉法人報恩良友会 ケアハウス「ロータス桑野」発行
岡山市中区桑野 486-12
TEL 086-276-9801

ひろば

vol.190

ひととき 施設長 中島 聖恵

「ロータス桑野の秋の遠足は、和気閑谷学校の櫛かしの木の紅葉を見て、日生で美味しいご馳走を頂くコースな感じですよ」「櫛の木の紅葉か、それはいいな」主人と紅葉の話になりました。「職員旅行で小豆島の寒霞溪に昔に行つたこと覚えていらつしゃいますか？あの時のモミジの紅葉は素晴らしかったですよね。それから津島の岡山大学の銀杏並木、ギンナンを拾いに行った時、金色の絨毯を敷き詰めたような銀杏の落ち葉もきれいだつたわ」と懐かしそうに話す私に、「コンピューターで木の葉を描くのと人間が描くのとどっちが上手に描けると思う」急に主人が目を丸くして言いました。「自然のものを描こうとしたら、コンピューターより人間の手で描いた方が本物の木の葉のように描けるんだそうだ、ホラ、これがコンピューターで描いた木の葉だ」と、コンピューターで描いた葉の挿絵を見せてくれました。一瞬、SF映画の世界に紛れ込んだ様な不気味さ薄気味悪さが私の全身を走りました。金色の絨毯のような銀杏の落ち葉、一枚一枚拾い集めてよく見ると、少しづつ葉の形が違ってきます。扇のように広がった山のところなど比べて見るとみんな違う。一つとして同じものはありません。同じものがないのが自然界なのです。人間の顔も親子兄弟はよく似ていますが違います。私は女学生の頃、二歳違いの妹と双子、双子とよく間違われました。双子の方を存じ上げていますが、お兄さんか弟さんか私はすぐ分かります。見間違ふ事はありません。顔が違うように考え方もみんな違います。世界の人口が七十億人でも、一人として同じ人は

いません。もし同じだったらコンピューターで描いた絵の様なSFの世界です。一つとして同じものがないから、世界でたった一つ、唯一無二の自分に価値があるのです。入居の皆様個性溢れる玄関の装いを眺めながらロータス桑野の廊下を歩くのはとても楽しいです。ちょうどお買い物をされて帰って来られた方とばつたりお会いしました。玄関飾りのパッチワークが可愛いく「ステキですね、肩が凝りませんか」「手仕事が大好きで、まだまだしたいことが山のようにあるのですよ。これ見て下さい。こんな小さい余り布、捨てるのも可哀相だし、勿体無いからと一つ一つ縫い繋ぎましたの、椅子カバーにしよう。小布一つ一つはあまり役には立たないけれど、それを繋いだら大きなものに、立派なものになります。私も一人の存在は小さく、小布の様だけれど、周りの皆に励まされ支えられ助けられてこうして生きているのだなとそんなことを思いながら作っていますよ」とニコニコされました。なんと素晴らしい人生なのでしょう。

「毎朝朝礼で、理念・目的の『多様な構成要素がそれぞれの個性を保持しながら、同一の目的に向かって・・・』と唱和している時に、みんな違うから気付くところも違つて、お互いに補い合つて、教えてもらつて仕事が出来ているな」といつも思います」と昼食の時一人の職員が話してくれました。ありがたう、ありがたう、一人の力では大したことには出来ません。二百余人の職員や地域の皆様、周りの多くの皆様に支えられて良友会は運営されています。本当に有難うございます。



川柳

「柿」
木守柿ボトリと落ちて秋は去り
お母さん柿豊作で五十肩
焼酎であわせた柿が好きな妻
陽の温さ風の冷たさ柿熟す
軒下に並ぶ暖簾は吊るし柿
大好きな柿の為にと歯医者行く
渋柿をみんなで剥いて待ちわびぬ
柿渋の衣まといてみさお山
干し柿がなぜか食べたお年頃
二日酔い柿を食べると苦が楽に
天高く食欲の秋柿一番
渋柿で染めた網で魚取る
三年目植えたなえ木が実をつけた

初音 厚彦 菊江 よしか 秀子 聖 初江 佐千子 金蚤 緑 和夫 なか 久子

柿みのり指示する子らの可愛いこと

読者より

秋空の岡山走る二万人

八重子

政子

一二月の行事予定

七日(火)	一四時三〇分	お花教室
九日(木)	一〇時	運動会
一〇日(金)	一〇時	遠足「閑谷学校」
一三日(月)	一四時	押し花
一四日(火)	一四時	エステ
一六日(木)	一四時	川柳「支度」
一八日(土)	一五時	親睦会
一九日(日)	午前中	散髪
二〇日(月)	一四時	食事会
二二日(火)	一四時	コーラス
二三日(木)	一四時	翔の会
二八日(火)	一〇時過ぎ	買い物

* 今月のお花教室は**第一火曜日**です

避難訓練中



十一月の
お誕生日
おめでとう
ございます



お久しぶり

